

1. 流域マネジメントの推進			国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
貯留・涵養機能の維持・向上												
1	スマート林業の導入等による作業の省力化・効率化	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		中	県農林	R6) 森林クラウドシステムの稼働による情報の共有化、航空レーザ計測による効率的な森林資源情報の把握(大野市の一部) R7) 航空レーザ計測データを活用した林業の効率化
2	森林経営管理制度を活用した森林整備率の向上	○	○	◎	◎	○	○	○		中	市	R6) 手入れが行き届かない森林所有者への意向確認を実施 R7) 意向のある森林についての林業事業者による林況調査の経費補助
3	林業従事者育成支援	○	◎	◎	○	○	○	○		短	県農林市	(県)R6) ふくい林業カレッジによる専門知識、技術の習得、林業就業促進資金の貸し付け制度(研修、就業準備に必要とする無利子の資金) (県)R7) 継続して実施 (市)R6) 新規就労者を雇用する事業者の支援など林業従事者の雇用・育成支援の継続 (市)R7) 継続して実施
4	福井県水源涵養地域保全条例及び大野市森・水保全条例の適正な運用	○	◎	◎	○	○	○	○		中	県農林	(県)R6) 届出に基づく指導・助言8件 (県)R7) 継続して実施 (市)R6) 届出に基づく指導・助言14件 (市)R7) 継続して実施
5	民間主導の森林保全活動の推進	○	○	○	◎	◎	◎			中	市	R6) 越前おおのエコフィールド管理・運営協議会が実施する森づくりイベント R7) 継続して実施
6	未利用間伐材等の有効利用	◎	◎	◎	◎	◎	◎			中	県農林市	(県)R6) 県有林における木質バイオマス発電等の木材搬出 7,200m <sup>3</sup> 、民有林における木質バイオマス発電等の木材搬出 8,300m <sup>3</sup> (県)R7) 効率的な森林整備を進め、継続的に未利用間伐材の有効利用を促進 (市)R6) 木質バイオマス発電所への木材搬出支援3,738.525m <sup>3</sup> (11月30日時点) (市)R7) 木材利用の促進に向けた森林環境譲与税を活用したこども園等への大型遊具等の導入補助、店舗やオフィスの木質化支援
7	河川維持流量に係る関係者間の情報共有と共通認識化	◎	◎	◎	○	○	○	○		中	—	—
8	河岸かく乱など河川環境改善に向けた取り組みの継続	○	◎	○						短	県奥土	R6) 真名川の水際掘削を約720m <sup>2</sup> 実施(参考:R5は未実施) R7) 継続して実施
9	真名川における自然出水再現放流の実施	◎	○	○		○	○			短	国九統	R6) 【共通】真名川における自然出水再現放流を実施するため、真名川ダム弾力的管理について本格運用を継続 R7) 継続して実施
10	清滝川の土砂の浚渫など河川環境の改善		◎	○						短	県奥土	R6) 大野市南新在家他で浚渫500m <sup>3</sup> 実施(参考:R5は約490m <sup>3</sup> 実施) R7) 継続して実施
11	赤根川の治水対策における地下水の河川への流出抑制に配慮した整備手法の検討		◎	○				○		中	県奥土	R6) 河川整備計画を変更予定(10/28 流域懇談会開催)
12	水田湛水の継続実施及び面積拡充等の検討	○	○	◎	○		○			短	市	R6) 水田湛水を約40ha実施(R6.10.1～R7.2.28実施) R7) 継続して実施
13	農地における水の貯留・涵養機能の向上に向けた検討	○	○	◎	○		○	○		短	市	R6) 環境保全型農業直接支払制度の活用促進 R7) 多面的機能支払交付金制度の活用促進
14	越前おおの型食・農業・農村ビジョンの推進	○	○	◎	○		○			中	市	R6) 越前おおの型食・農業・農村ビジョンを推進し、「儲かる農業」を目指す農家を支援 R7) 継続して実施
15	認定農業者などの担い手への農地集約・集積やスマート農業の導入による経営体質の強化	○	◎	◎	◎		○			中	市	R6) 担い手への農地集約・集積の推進及びスマート農業機器導入の支援 R7) 継続して実施
16	農業振興地域整備計画の適正運用		○	◎	○		○			中	市	R6) 適正な運用の継続による優良農地の確保 R7) 継続して実施
17	農業水利施設の老朽化対策及び共同活動による農地維持作業の促進	○	○	○	◎		◎			中	市	R6) 多面的機能支払交付金を活用し継続的に実施 R7) 継続して実施
水資源の適正かつ有効な利用の促進												
18	年間を通じた節水行動と節水機器の普及啓発	◎	◎	◎	◎	◎	◎			短	市	R6) 節水型シャワーヘッド等購入助成、節水チラシの配布 R7) 継続して実施
19	地下水水位表示板やHP等を通じた啓発			◎	○	○	○			短	市	R6) 毎日の地下水水位観測と表示板の情報更新、HPの水位情報を毎週更新 R7) 観測と情報発信の継続
20	水資源の保全と利用の調和を図るための指針作成	○	○	◎	○	○	○			短	—	—
21	水利用の合理化の検討	◎	◎	◎	○	○	◎			中	市	R6) 雨水利用の促進、節水型シャワーヘッド等購入助成(再掲) R7) 継続して実施
22	道路消雪施設から機械除雪への転換		◎	◎	○					中	市	R6) 長寿命化計画で、幅員が狭い道路や降雪量の多い地区以外は、散水管が老朽化により使用できなくなったら機械除雪に転換する計画 (転換の実績無) R7) 継続して実施
23	慣行水利権から許可水利権への変更の推進	○	◎	○	○		○			中	—	—
24	雨水の有効利用と貯留浸透の推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎			短	市	R6) 講座等の開催 R7) 継続して実施
25	大野市営水道事業基本計画に基づいた施設整備等の推進	○		◎	○	○	○			中	市	R6) 取水施設のさく井工事を実施(木本地区簡易水道)。簡水統合に向けた説明会を実施(西富田・富田・北富田・南富田地区簡易水道) R7) 引き続き計画に基づいた施設整備等を推進
26	水道水質の管理徹底		○	◎						短	市	R6) 異常なし R7) 引き続き管理を徹底
27	連携した湯水対応	◎	◎	◎	◎	◎	◎			中	市	R6) 地下水水位低下時に北陸電力、土地改良と連絡、調整 R7) 大野市地下水水位低下対応計画に沿って対応を実施
28	環境基本計画に基づいた生物多様性の保全		◎	◎	○	○	○	○		中	市	R6) 親子で生き物調査等を行い生物多様性への理解を深める「自然ふれあい探検隊」の開催(2回)、イトヨ観察会(3回)、 「イトヨ守り隊」の活動 R7) 継続して実施
29	水辺空間の有効利用と適正管理	◎	◎	◎	○	◎	◎			中	—	—

1. 流域マネジメントの推進		国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
水資源の適正かつ有効な利用の促進											
30	内水面漁業の振興		○	○	○		◎		中	市	R6) 漁業協同組合が実施する稚魚の放流等、内水面漁業の振興に対する支援の実施 R7) 継続して実施
31	水辺の楽校の活用		◎	◎	○	○		○	短	—	—
32	真名川サイクリングコースの活用		○	◎	◎				短	市	R6) サイクリングコースの適正な維持管理 R7) 適正な管理を継続
33	河川上流部地域における体験型観光等の推進	○	○	◎	○	◎	◎		中	市	R6) 民間団体が九頭竜湖上流で自然体験等を提供している R7) 継続して実施
34	水のみえる施設の適切な維持管理と水を感じることができる環境づくり		◎	◎	○				中	市	R6) 義景清水、芹川、大手門広場など湧水池施設の適正な維持管理を継続 R7) 適正な管理を継続
35	ごみ捨て防止への意識啓発活動		◎	◎	○	○	○		短	市	R6) 和泉地区クリーンアップ大作戦(4/13～4/21)を実施、調査・監視継続 R7) 継続して実施
36	グリーンインフラの活用推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎		中	市	R6) 七間通りの石畳区間を歩きやすい道路空間として整備を検討、公園樹木および街路樹の適正な維持管理、田んぼダムの実施 R7) R8整備に向け検討を継続、樹木管理を継続、田んぼダムの実施
37	河川水質の監視		◎	◎	○				短	市	R6) 河川、用水路の水質調査を実施(17か所) R7) 継続して実施
38	公共下水道の加入と合併処理浄化槽の設置	○	○	◎	◎	◎	◎		短	市	R6) 公共下水道の加入促進(未加入者宅訪問)を継続的に実施及びご近所接続奨励金を拡充。合併処理浄化槽設置補助を継続的に実施 R7) 公共下水道への加入促進訪問の継続的な実施及び拡充したご近所接続奨励金を推奨。合併処理浄化槽設置補助を継続的に実施
39	有害物質使用事業所への立入調査や水質監視の実施		◎	◎		◎			中	県健康 市	R6) 調査・監視の継続 R7) 継続して実施
40	窒素負荷低減対策の実施		○	○	◎	○	◎		中	市	R6) 化学農薬・化学肥料の使用を抑え、環境負荷の軽減に配慮した環境調和型農業の促進 R7) 継続して実施
41	海洋プラスチック問題につながる河川等でのごみの不法投棄への対応	◎	◎	◎	◎	◎	◎		中	市	R6) 真名川「クリーンアップふくい大作戦」(6/16開催)を県や漁協などが主催し、市も協力 R7) 継続して実施
健全な水循環を通じた地域活性化の推進											
42	水のがっこうを拠点とした地域活性化の推進			◎	○			○	短	市	R6) 「水の教育」「水環境の保全継承」「水によるブランド化」の活動を越前おおの水のがっこうを拠点に推進 R7) 継続して実施
43	湧水地などを巡る散策ルートの設定		○	◎	○				中	市	R6) 総合観光パンフレットや観光ガイドマップに湧水地をルートに含めた「まち歩きコース」を紹介してPRしている R7) 継続して実施
44	水をテーマにした観光の推進		○	◎		○			中	市	R6) 名水を汲みながらまち歩きを楽しめるペットボトル「ミタス」の販売や御清水をカラフルな提灯でライトアップし魅力アップに取り組んでいる R7) 名水資源を活かした観光商品の販売や御清水の魅力向上に取り組む。
45	SNS等を活用した計画的な広報展開			◎	○				短	市	R6) 地下水低下時やイベント開催時に市ホームページおよび市公式LINEを活用して節水に関する情報を発信 R7) 継続して実施
46	名水を活用した特産品のブランディング			◎	○	◎			中	市	R6) ふるさと納税サイトでの返礼品(米、日本酒、ふくい名水サーモン等)を通じた名水イメージのPRなどを実施 R7) 継続して実施
47	特産品のプロモーション活動の推進			◎	○	◎	◎		中	市	R6) メディアや新聞等を活用したPRを実施 R7) 継続して実施
48	道の駅「越前おおの 荒島の郷」やECサイトを活用した特産品の販売促進			○	○	◎	◎		短	市	R6) 大野市道の駅産直の会による道の駅直売所での物販による販路拡大、越前おおの農林楽舎による販売促進、ふるさと納税への出品促進 R7) 継続して実施
49	市のイメージに合った企業の誘致	○	○	◎	○	○	○		中	市	R6) 企業誘致活動を実施 R7) 継続して実施

2. 水循環に関わる人材の育成と水文化の継承								国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
<b>健全な水循環に関する教育、人材育成及び研究の推進</b>																	
1	水循環に関する教育や啓発活動の継続的な実施	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R6) 幅広い世代を対象とした水に関する様々な講座の開催(スイスイ課外授業1回、スイスイサイエンス講座1回、スイスイ課外授業ジュニア1回)、イベントの開催(水まつりの開催、こどもまんなかフェスティバルへの参加) R7) 継続して実施						
2	教育現場における水に関する講座の実施		◎	◎	○				短	市	R6) 市内小学校のイトヨの里見学の受入れ、市内小学校の下水処理センター見学の受入れ R7) 継続して実施						
3	「水の本」を使用した出張授業の実施			◎	○				短	市	R6) 実施なし R7) 要請に応じて引き続き実施						
4	幼少期から水について考え学べる機会の創出	○		◎	○			○	短	市	R6) 親子で参加でき、楽しみながら学べる「イトヨ観察会」「スイスイ課外授業ジュニア」の開催 R7) 継続して実施						
5	水の支援を通じて得た成果による水への感謝の気持ちの醸成			◎	○	○	○		短	市	R6) 水のがっこうにおいて動画の常設放映や、水の授業を通じた活動の紹介 R7) 継続して実施						
6	民間活動による水のがっこうの活用			○	◎	◎	◎	○	中	市	R6) 「めいりん塾」の開催(大野地区子ども会育成会連絡協議会)						
7	水に関する書籍・資料等の収集・共有	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R6) 蔵書、資料やデータ等を収集して水のがっこうで共有 R7) 継続して実施						
8	本市をフィールドとした大学や国の研究機関が行う水に関する研究の促進			◎	○			◎	短	市	R6) 大学等の研究機関と共同研究を実施(香川大学、琉球大学、岡山大学、秋田大学、日本大学、総合地球環境学研究所) R7) 継続して実施						
9	シンポジウム等の開催による情報発信			◎	○			○	短	市	R6) 「水資源保全全国自治体連絡会シンポジウムin越前おおの」の開催						
10	ニーズに合った市民向け講座の企画と運営	○	○	◎	○	○	○	○	短	市	R6) 幅広い世代に向け水に関する様々なテーマで講座等を開催(スイスイ課外授業1回、スイスイサイエンス講座1回、スイスイ課外授業ジュニア1回) R7) 継続して実施						
11	水循環の重要性についての理解と関心を深め認知度を向上させるための行事等の開催	◎	◎	◎	○	○	○	○	短	市	R6) 8/1全国一斉ブルーライトアップへの参加(越前大野駅前広場8/16まで実施)、公式ラインで水の日の趣旨や水関連イベントをPR R7) 継続して実施						
12	市民団体等による自発的な取り組みの実施			○	◎	○			短	市	R6) 市民団体の主催による講演会開催、継続的な湧水地の保全活動、市民団体主催の第21回身近な水環境の全国一斉調査に市民のほか国・県・市が参加						
<b>水文化の保全と継承</b>																	
13	蓄積された調査研究成果の整理集積・共有	○	○	◎	○	○	○	○	中	市	R6) 蓄積されている調査研究成果の整理集積、施策への反映。水のがっこうで共有 R7) 継続して実施						
14	写真や地図など様々な資料のデジタルアーカイブ化	○	○	◎	○	○	○	○	中	—	—						
15	市内外に向けた水文化の積極的な情報発信	○	○	◎	○			○	短	市	R6) 市内を訪れた児童生徒に対して大野の水文化をPR。令和6年度水資源保全全国自治体連絡会シンポジウムで大野の水文化をPR R7) 市内を訪れた児童生徒に対して大野の水文化をPR						
16	伝承や遺産の継承と文献や民具等の活用			◎					中	市	R6) 大野市民俗資料館で漁具の展示紹介 R7) 継続して実施						
17	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進	◎	○	◎	○	○	○		短	市	R6) 大野市水循環推進協議会と連携・調整を図りながら施策に取り組む R7) 継続して実施						
18	イトヨの里を拠点としたイトヨを通じた環境教育の展開			◎	◎				短	市	R6) 企画展、観察会の開催。イトヨ守り隊の活動実施(再掲) R7) 継続して実施						
19	イトヨの里館内の展示物のリニューアルやイトヨ生息地の保全	○		◎	○				短	市	R6) イトヨ生息地の保全対策を実施 R7) 継続して実施						
20	水文化に関する講座等の開催			◎	○				短	市	R6) 金森長近公がまちづくりで水を生かしたことを特別展および講座・講演会で発信 R7) 金森長近公がまちづくりで水を生かしたことを発信						
21	市民参加型のイベントの開催	◎	○	◎	○				短	市	R6) 「水まつり(8/15・16)」を開催 R7) 継続して市民参加型のイベントを実施						
22	ブナの森環境保全林の適正管理と活用			◎	○	○	○		短	市	R6) 委託事業や民間団体の活動により継続的に実施 R7) 継続して実施						
23	湧水地数の把握と整理と保存			◎	○				中	—	—						
24	飲用実態のある湧水地の衛生環境の確保		◎	◎	○	○			短	市	R6) 市管理湧水地の水質検査を実施 R7) 継続して実施						
25	水文化に関する伝統行事等の「おおの遺産」への登録			◎	○				短	市	R6) 情報収集の継続 R7) 継続して実施						
<b>新たな水文化の創造に向けて</b>																	
26	市民の意識アンケートの実施			◎	○	○	○		短	市	R7) アンケート実施予定						
27	醸造品などの地域産品の継承や販売の促進、新たな商品開発	○	○	○	○	◎	◎		中	市	R6) 新規事業により商品の高付加価値化に向けた市内事業者の商品開発等を支援 R7) R6開発商品の見本市・品評会などへの出展・出品を支援						



3. 災害や気候変動、地下水障害等への対応			国	県	市	市民	企業	団体	研究	期間	今回報告	実施状況及び今後の方針
<b>水災害に対する防災・減災対策</b>												
1	給水施設間のループ化・給水ルートの耐震化	○	○	◎						中	市	R6) 大野駅春日日本線、鍛掛新庄東中線の耐震化更新 R7) 引き続き基幹管路の耐震化更新を実施
2	公共下水道ストックマネジメント計画に基づいた更新事業の実施	○	○	◎	○	○	○			中	市	R6) 下水処理センターの電気機械設備更新 R7) 継続して実施
3	ため池の適正管理や耐災害性の強化の促進	○	○	○	○			◎		中	市	R6) 奥越ふれあい公園の既存調整池の適正な維持管理、都市公園(滝ヶ花公園)調整池機能回復 R7) 既存調整池の維持管理を継続、滝ヶ花公園の調整池機能回復
4	治山施設や砂防施設の適切な維持管理・更新	◎	◎	◎	○					中	県農林	R6) 治山施設点検 130箇所 R7) 治山施設点検 112箇所(計画)
5	自主防災組織の組織強化による防災力の向上	○	○	◎	◎	○	○			中	市	R6) 自主防災組織におけるコミュニティタイムラインの作成促進 R7) 継続して実施
6	大野市総合防災マップ(ハザードマップ)を活用した防災力の向上	◎	◎	◎	◎	◎	◎			中	市	R6) 説明会や講座等の開催 R7) 継続して実施
7	流域治水の推進	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		中	市	R6) 流下能力向上のための新堀川護岸改修、赤根川および黒谷川の浚渫 R7) 新堀川の護岸改修、黒谷川および木本水路の浚渫
8	河川改修による流下能力の向上	○	◎	○	○					中	—	—
9	九頭竜川上流ダム再生事業の推進	◎	○	○		○				中	国九統	R6) 九頭竜川における既設ダムの有効活用により、治水機能の向上を図るため、施設設計、地質調査 R7) 九頭竜川における既設ダムの有効活用により、治水機能の向上を図るため、継続して検討を実施
10	防災井戸等の設置の検討	○	○	◎	○	○	○			中	市	R7) 先行事例の把握に向けた情報収集
11	災害応急用井戸の登録制度運用の検討	○	○	◎	◎	◎	◎			中	市	R7) 先行事例の把握に向けた情報収集
<b>気候変動が水循環に与える影響の調査研究と適応策の検討</b>												
12	気候変動が水環境に与える影響の情報収集・把握	○	○	◎					◎	中	市	R6) 香川大学と共同研究を実施 R7) 継続して実施
13	ダムや河川、地下水帯の持つ機能が連携する活用策の検討	○	○	◎	○	○	○	◎		中	—	—
14	健全な水循環を維持するために必要となる適応策の検討	◎		○					◎	中	市	R6) 大野市環境基本計画に基づいた施策の展開 R7) 継続して実施
15	温室効果ガスの吸収源となる森林の保全整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		中	県農林市	R6) 県有林における間伐65ha、民有林における間伐81ha R7) 県有林における間伐80ha(計画)
<b>地下水障害の防止と対策</b>												
16	地下水の消雪利用禁止の制度周知・監視と遵守	○	○	◎	◎	◎	◎			短	市	R6) 大野市克雪市民会議と市ホームページ、広報おおの12月号で周知 R7) これまでの周知を継続して実施。広報おおのや市公式LINEなど活用して周知方法を拡大して実施
17	道路消雪施設から機械除雪への転換(再掲)		◎	◎	○					中	市	R6) 長寿命化計画で、幅員が狭い道路や降雪量の多い地区以外は、散水管が老朽化により使用できなくなったら機械除雪に転換する計画 (転換の実績無) R7) 継続して実施
18	上水道への加入			◎	◎	◎	◎			短	市	R6) 加入促進を実施 R7) 継続して実施
19	砂利採取の禁止・抑制への協力の継続			◎	○	○	◎			中	市	R6) 大野砂利採取販売同組合との市街地南部での砂利採取の禁止・抑制に関する協定締結の継続 R7) 継続して実施
20	条例による地下水採取規制の方向性の検討			◎	○	○	○			中	市	R7) 水循環基本計画の中間評価を踏まえ必要性を検討
21	地下水位の監視と地下水注意報・警報の発令	○	○	◎	○	○	○			短	市	R6) 地下水位の常時監視を継続(注意報・警報発令なし) R7) 地下水位の常時監視を継続し、発令基準を適正に運用、注意報・警報発令時に注意喚起や節水協力の呼びかけ継続して実施
22	有害物質使用事業所における適正管理と地下水質の監視継続		◎	◎		◎				短	市	R6) 県と連携した特定事業場等の監視の継続、市内41か所で水道法40項目の検査を実施、市内10か所でPFAS(PFOS、PFOA)検査を実施 R7) 県と連携した特定事業場等の監視の継続、水道法40項目検査の継続
23	有機塩素化合物汚染の浄化対策		○	◎	○					短	市	R6) 3か所での地下水の強制排水による浄化対策を実施 R7) 継続して実施
24	汚染状況のモニタリングの継続		◎	◎	○					短	市	R6) 年4回、18定点での定期的な水質検査の実施 R7) 観測地点の変更を検討
25	地下水に配慮した公共事業の実施	◎	◎	◎						短	市	R6) 下水道管布設での地下水低下水工法採用時には、現場作業を確認し作業時排水とし、汲み上げ量を必要最小限となるよう実施 R7) 継続して実施
26	誘致企業等との公害防止協定締結の推進			◎		◎	◎			中	市	R6) 引き続き公害防止協定締結を推進 R7) 継続して実施
27	地盤沈下の定期的な監視			◎						中	市	R6) 城北町地区の沈下計による定点観測を実施 R7) 継続して実施
28	地盤沈下に関する情報発信を通じた地下水保全意識の啓発			◎	○	○	○			短	市	R6) 大野市地下水年度報告書で地盤沈下の状況を公表 R7) 継続して実施
29	井戸枯れ対応タイムラインの作成と運用	○	○	◎	○	○	○			中	市	R6) 令和4年度に関係者が行うべき対応の手順を示した時系列の行動計画「大野市地下水位低下対応計画」を作成、公表(R6は運用なし) R7) 運用・見直し修正
30	地下水汚染対応タイムラインの作成と運用	○	○	◎	○	○	○			中	—	—
31	水に関するモニタリング計画の作成と運用	○	◎	◎	○	○	○			中	市	R7) 策定に向けた情報収集